# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 国語 | 科目名 | 論理国語 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 新論理国語（三省堂）
② 新論理国語　学習課題ノート（三省堂）
③ 常用漢字ダブルクリア（尚文出版）
④

**学　習　の　重　点　目　標**

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。特に実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査の出来具合<br>教科書・副教材の内容を中心に<br>作問<br>②小テストの出来<br>授業で学習した内容・漢字につ | ①学習課題ノート･課題プリント<br>単元毎に学習課題ノート･課題プリントを実施<br>②意見発表の内容<br>学習活動の中で、考えを深め意<br>見を発表する活動を実施 | ①授業中の態度や意欲<br>②提出物の内容<br>プリント・副教材<br>③自己評価・振り返り<br>小テストや考査後に自己評価や<br>振り返りを実施 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況） | | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| | | B＋ | B－ | |
| 知・技 | 定期考査と小テストの合計得点が８０点以上であり、基本から応用まで概ね理解することができている。 | 定期考査と小テストの合計得点が５５～７９点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０～５４点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。 | 探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。 | | 探究的な課題やグループ活動にあまり組むことができていない。 |
| | 応用的な問題にも計画的に取り組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。 | 応用的な問題に取り組み、ある程度の思考力や判断力が身についてきている。 | | 応用的な問題にあまり取り組むことができていない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習をして粘り強く学習に取り組み、グループ活動においても積極的に発言することができる。 | 真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 | | あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。 |
| | 振り返るべき内容を的確に捉えて表現することができ、次の取り組みに活かすことができている。 | 振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。 | | 振り返るべき内容をあまり考えることができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | 1　論点を整理するために<br>「若者に友達プレッシャー」 | 7 |
| | | ★中間考査 | 1 |
| | 6月～7月 | 「他者を理解する」 | 5 |
| | | 2　正しく推論するために<br>「一人で爆笑」 | 6 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 第2学期 | 8月～9月 | 「カタカナ語は享受すべきか」 | 5 |
| | | 3　事例の意味を探るために<br>「それぞれのしっくりくる言葉」 | 5 |
| | | 「多様な視点から考える」 | 5 |
| | | ★中間考査 | 1 |
| | 10月～11月 | 4　構成を吟味し説得力を高めるために<br>「落語の中の経済学」 | 7 |
| | | 「ホンモノのおカネの作り方」 | 8 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 第3学期 | 12月～1月 | 5　信頼性を吟味する<br>「なぜ私たちは労働するのか」 | 5 |
| | | 6　隠れた前提を探すために<br>「地球上の『旅人』」 | 6 |
| | 2月～3月 | 6　隠れた前提を探すために<br>「スポーツとナショナリズム」 | 6 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 総　時　間　数 | | | 70 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 国語 | 科目名 | 文学国語 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・（発　行　所）**

① 教科書：文学国語（大修館：文国７０４）
② 問題集：文学国語　学習ノート（文国　704準拠）
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

①文章の内容、構成、展開。描写などをとらえ、解釈できる読解力をつける。
②他作品などと比較して読解し、文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりできるようにする。
③解釈を他者と共有し、解釈の多様性について考える力をつけ、ものの見方、考え方、感じ方を深める。
④体験に基づき、構成、表現などを工夫して、文学的文章を書く力を養う。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | 国語一般常識や文章の読解力を、小テストと定期考査で評価する。 | 考えたことを的確に表現できる力を、授業中の問いに対する解答やレポート・感想文作成、話し合いの様子等で評価する。 | 自ら進んで学習に取り組み、向上し続けようとする意欲を、授業中の態度や提出物、学期ごとの振り返りで評価する。 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況） B＋ | B（概ね満足できる状況） B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と小テストの合計得点が８０点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。 | 定期考査と小テストの合計得点が５５～７９点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０～５４点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 探究的な課題やグループ活動で、自分の考えを他者に伝わる適切な表現で述べたり、表現することができている。 | 探究的な課題やグループ活動で、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。 | | 探究的な課題やグループ活動で、あまり自分の考えを表現することができていない。 |
| 思・判・表 | 文章読解後の考えや感想を、レポートや感想文等で他者によく伝わるよう的確に表現することができている。 | 文章読解後の考えや感想を、レポートや感想文等である程度伝わるように表現することができている。 | | 文章読解後の考えや感想を、レポートや感想文等で表現することがあまりできていない。 |
| 主体性・態度 | 学習に主体的に取り組み、積極的に発言したり、提出物を期限内に出したりすることができている。 | 真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 | | あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。 |
| 主体性・態度 | 振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。 | 振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。 | | 振り返るべき内容をあまり考えることができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | 1　随想・評論（一）想像と共感<br>飛ぶことを知っている魂　　梨木香歩 | 5 |
| | | ★中間考査 | 1 |
| | 6月～7月 | 十八歳の選択　　朝井リョウ | 8 |
| | | 読書感想文指導 | 1 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 第2学期 | 8月～9月 | 2　小説（一）現代への視点<br>旅する本　　石田衣良 | 6 |
| | | 5　随想・評論（二）自然を表す<br>鹿を追いかけて　　小池昌代 | 5 |
| | | ★中間考査 | 1 |
| | 10月～11月 | 7　小説（五）虚構の可能性<br>美神　　三島由紀夫 | 6 |
| | | 8　随想・評論（三）視点を広げる<br>私の日本住居論　　ドナルド・キーン | 6 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 第3学期 | 12月～1月 | 3　小説（二）語りの世界<br>山月記　　中島敦 | 4 |
| | 2月～3月 | 山月記　　中島敦 | 9 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 総　時　間　数 | | | 55 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 地理歴史 | 科目名 | 地理総合 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 地理総合（実教出版）
② 新高等地図（東京書籍）
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

地理に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めさせる。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査の出来具合<br>考査の問題は教科書や問題集の内容を中心に作問<br>②小テストの出来具合<br>教科書の学習した内容についての１０分間小テストを実施 | ①定期考査毎に問題集への取り組み状況や記述内容を評価<br>②定期考査後の振り返り課題レポートの記述内容を評価 | ①授業中の態度や意欲を評価<br>②課題レポートや問題集の提出状況を評価<br>③定期考査後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容を評価 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況）B＋ | B（概ね満足できる状況）B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と小テストの合計得点が８０点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。 | 定期考査と小テストの合計得点が５５～７９点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０～５４点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。 | 探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。 | | 探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。 |
| | 応用的な問題にも計画的に取り組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。 | 応用的な問題に取り組み、ある程度の思考力や判断力が身についてきている。 | | 応用的な問題にあまり取り組むことができていない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習をして粘り強く学習に取り組み、グループ活動においても積極的に発言することができる。 | 真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 | | あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。 |
| | 振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。 | 振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。 | | 振り返るべき内容をあまり考えることができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第１学期 | 4月～5月 | 第２編　国際理解と国際協力<br>第１章　生活文化の多様性と国際理解<br>グループ１　自然環境と生活文化<br>テーマ①地形と生活文化 | 2 |
| | | テーマ②気候と生活文化 | 3 |
| | | ★中間考査 | 1 |
| | 6月～7月 | テーマ②気候と生活文化<br>グループ２<br>テーマ①東アジア | 11 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 第２学期 | 8月～9月 | テーマ①東アジア<br>グループ３<br>テーマ②西アジア・北アフリカ | 11 |
| | | ★中間考査 | 1 |
| | 10月～11月 | グループ４<br>テーマ①ヨーロッパ | 6 |
| | | グループ５<br>テーマ①北アメリカ | 7 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 第３学期 | 12月～1月 | グループ５<br>テーマ①北アメリカ<br>第２章　地球的課題と国際協力 | 16 |
| | 2月～3月 | 第２章　地球的課題と国際協力 | |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 総　時　間　数 | | | 61 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学Ａ | | | | | | | | | | |
| 単位数 | ３ | 学科 | 看護科 | 学年 | ２年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 教科書：新編数学Ⅰ（啓林館：数Ⅰ７１０）
② 教科書：新編数学Ａ（実教出版：数Ａ７０７）
③ 問題集：ステップアップノート数学Ⅰ（啓林館）
④ 問題集：ラウンドノート数学Ａ（実教出版）

**学　習　の　重　点　目　標**

①数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
②家庭学習をする習慣を身に付け、自己の学習方法を改善・調整しようとする姿勢を身に付ける。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査の出来具合<br>問題は問題集の内容を中心に作問<br>②小テストの出来具合<br>教科書の学習した内容についての１０分間小テストを実施 | ①定期考査毎に問題集への取り組み状況や記述内容を評価<br>②定期考査後の振り返り課題レポートの記述内容を評価<br>③グループ活動や発表の内容を評価 | ①授業中の態度や意欲を評価<br>②課題レポートやノートの提出状況を評価<br>③定期考査後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容を評価 |

**評　価　の　基　準**

| | Ａ（十分満足できる状況） | Ｂ（概ね満足できる状況）Ｂ＋ | Ｂ（概ね満足できる状況）Ｂ－ | Ｃ（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と小テストの合計得点が８０点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。 | 定期考査と小テストの合計得点が５５～７９点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０～５４点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。 | 探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。 | | 探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。 |
| | 応用的な問題にも計画的に取り組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。 | 応用的な問題に取り組み、ある程度の思考力や判断力が身についてきている。 | | 応用的な問題にあまり取り組むことができていない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習をして粘り強く学習に取り組み、グループ活動においても積極的に発言することができる。 | 真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 | | あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。 |
| | 振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。 | 振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。 | | 振り返るべき内容をあまり考えることができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第１学期 | ４月～５月 | ※１年次の数学Ⅰの続きの内容<br>第４章　図形と計量<br>　第１節　鋭角の三角比<br>★中間考査 | <br><br>11<br>1 |
| | ６月～７月 | 　第２節　鈍角の三角比<br>　第３節　図形の計量<br>★中間考査 | 8<br>6<br>1 |
| 第２学期 | ８月～９月 | 　第３節　図形の計量<br>第５章　データの分析<br>　第１節　データの整理と分析<br>　第２節　データの相関<br>　第３節　統計的な見方<br>★期末考査 | 4<br><br>6<br>4<br>3<br>1 |
| | 10月～11月 | ※ここから数学Ａの内容<br>第１章　場合の数と確率<br>　１節　場合の数<br>★中間考査 | <br><br>19<br>1 |
| 第３学期 | 12月～１月 | 　１節　場合の数<br>　２節　確率 | 3<br>11 |
| | ２月～３月 | 　２節　確率<br>★期末考査 | 9<br>1 |
| 総　時　間　数 | | | 89 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 化学基礎 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 3 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 教科書：化基705「高校化学基礎」（実教出版）
② 副教材：高校化学基礎カラーノート（実教出版），高校化学基礎エブリィノート（実教出版）
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。⑴日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けるようにする。⑵観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。⑶物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査の出来具合<br>考査の問題は教科書や副教材の内容を中心に作問<br>②小テストの出来具合<br>教科書の学習した内容についての１０分間小テストを実施 | ①定期考査毎に問題集への取り組み状況や記述内容を評価<br>②振り返りシートや課題提出の記述内容を評価<br>③練習問題や探究課題についてのグループ活動や発表の内容を評価 | ①授業中の態度や意欲を評価<br>②課題レポートや問題集の提出状況を評価<br>③定期考査後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容を評価 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況）B＋ | B（概ね満足できる状況）B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と小テストの合計得点が８０点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。 | 定期考査と小テストの合計得点が５５～７９点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０～５４点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。 | 探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。 | | 探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。 |
| | 応用的な問題にも計画的に取り組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。 | 応用的な問題に取り組み、ある程度の思考力や判断力が身についてきている。 | | 応用的な問題にあまり取り組むことができていない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習をして粘り強く学習に取り組み、グループ活動においても積極的に発言することができる。 | 真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 | | 真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 |
| | 振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。 | 振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。 | | 振り返るべき内容をあまり考えることができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | 序章　化学と人間生活<br>１章　物質の構成<br>　１節　物質の探究<br>　２節　物質の構成粒子 | 1<br><br>5<br>5 |
| | 6月～7月 | ２章　物質と化学結合<br>　１節　イオン結合<br>　２節　共有結合 | <br>7<br>7 |
| 第2学期 | 8月～9月 | ３節　金属結合<br>３章　物質の変化<br>　１節　物質量と化学反応式 | 2<br><br>16 |
| | 10月～11月 | ２節　酸と塩基 | 14 |
| 第3学期 | 12月～1月 | ３節　酸化還元反応 | 18 |
| | 2月～3月 | 終章　化学が拓く世界 | 1 |
| 総　時　間　数 | | | 76 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 生物基礎 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 3 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 高校生物基礎・高校生物基礎エブリィノート・アクセスノート生物基礎・(実教出版)
②
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を化学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査の出来具合<br>副教材の内容を中心に作問<br>②小テストの出来具合<br>教科書の学習した内容について小テストを実施 | ①課題レポートの内容<br>単元毎に探究課題を実施<br>②グループ活動・発表の内容<br>探究課題についてのグループ活動及び発表を実施 | ①授業中の態度や意欲<br>②提出物の内容<br>授業プリント・副教材<br>③自己評価・振り返り<br>単元毎に自己評価・振り返りを実施 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況）B＋ | B（概ね満足できる状況）B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり，基本から発展まで万遍なく理解することができている。 | 定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。 | 定期考査と小テストぼ合計得点が30点未満であり，基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み，自分の考えを発表したり，適切に表現することができている。 | 探究的な課題やグループ活動に取り組み，ある程度自分の考えを述べたり，表現することができている。 | | 探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。 |
| | 発展的な内容も意欲的に学習し，身近な事物・現象に対し科学的な見方や考え方が身についている。 | 発展的な内容も学習し，ある程度の科学的に見方や考え方が身についている。 | | 発展的な内容を学習することができていない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習をして粘り強く学習に取り組み，グループ活動においても積極的に発言できている。 | 真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 | | 学習面・活動面においてもあまり取り組む気持ちがない。 |
| | 振り返るべき内容をきちんと考え，次の取り組みにしっかり活かすことができている。 | 振り返るべき内容は考えられているが，次の取り組みに活かすことがあまりできていない。 | | 振り返るべき内容をあまり考えられていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | 1編1章　生物の多様性と共通性　1～3節<br>1編2章　生物とエネルギー　1～3節<br>【中間考査】 | 5<br>5<br>1 |
| | 6月～7月 | 2編1章　遺伝情報とDNA　1～2節<br>2編2章　遺伝情報とタンパク質　1～3節<br>【期末考査】 | 8<br>7<br>1 |
| 第2学期 | 8月～9月 | 3編1章　体内環境と情報伝達　1～3節<br>【中間考査】 | 17<br>1 |
| | 10月～11月 | 3編2章　免疫のはたらき　1～3節<br>【期末考査】 | 13<br>1 |
| 第3学期 | 12月～1月 | 4編1章　植生と遷移　1～3節 | 10 |
| | 2月～3月 | 4編2章　生態系と生物の多様性　1～4節<br>【期末考査】 | 9<br>1 |
| 総　時　間　数 | | | 79 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 外国語【英語】 | 科目名 | 英語コミュニケーションⅡ | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 3 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① LANDMARK Fit English Communication Ⅱ（啓林館）
② LANDMARK Fit English Communication Ⅱ WORKBOOK（啓林館）
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

基本的な文法事項を理解し、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、学んだ事項を応用しながら、自分の意見や考えを表現し、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | 小テスト及び定期考査による合計得点で評価する。<br>授業内で取り上げた内容とワークブックから出題する。 | 提出物の出来具合や授業内での発言やグループ活動での発表内容で評価する。 | 提出物の提出状況や授業内での発言や授業への参加などの積極性を評価する。 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況） B＋ | B（概ね満足できる状況） B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と小テストの合計得点が８０点以上であり、基礎を理解し、それを応用することができる。 | 定期考査と小テストの合計が55～79点であるとき。 | 定期考査と小テストの合計が30～54点であるとき。 | 定期考査と小テストの合計が30点未満であり、学んできた事項の基本的な知識があまり定着していないとき。 |
| 思・判・表 | グループ活動や発表で積極的に発言でき、自分の意見をわかりやすく述べることができる。 | 課題の内容で不正確な部分はあるが、学んだ事項を使いながら、正しい文章を作ろうとしているとき。 | | 課題や提出物に取り組めておらず、授業内でも既習事項の適切な表現を使うことができていないとき。 |
| | 課題の内容から、学んだ事項が身についていると見受けられたとき。 | | | |
| 主体性・態度 | 提出物が期限内に提出されており、自己の学習内容が定着していると考えられるとき。 | 提出物を最終提出期限内に提出できている。既習事項が定着していると見受けられるとき。 | | 提出物が提出されておらず、自己の学習が定着していることが見受けられないとき。 |
| | 主体的に授業や活動に取り組んでおり、授業内でも積極的に発言できている。 | 授業内での発言をためらう傾向にあるが、授業やペア、グループでの活動に参加しようとしている。 | | ペアワークやグループ活動や発表にあまり積極的でない。参加しようという意欲が見られない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | Lesson 1 A Swedish Girl’s Discoveries in Japan | |
| | | Part 1 | 4 |
| | | Part 2 | 4 |
| | | Part 3 | 4 |
| | 6月～7月 | Lesson 2 A Message from Emperor Penguins | |
| | | Part 1 | 4 |
| | | Part 2 | 4 |
| | | Part 3 | 4 |
| | | Part 4 | 4 |
| 第2学期 | 8月～9月 | Lesson 4 Seeds for the Future | |
| | | Part 1 | 5 |
| | | Part 2 | 5 |
| | | Part 3 | 5 |
| | | Part 4 | 6 |
| | 10月～11月 | Lesson 6 Edo: A Sustainable Society | |
| | | Part 1 | 5 |
| | | Part 2 | 5 |
| | | Part 3 | 6 |
| | | Part 4 | 6 |
| 第3学期 | 12月～1月 | Lessson 7 Our Future with AI | |
| | | Part 1 | 6 |
| | | Part 2 | 6 |
| | 2月～3月 | Lesson 7 Our Future with AI | |
| | | Part 3 | 7 |
| | | Part 4 | 6 |
| 総　時　間　数 | | | 96 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 現代高等保健体育（大修館書店）
② Active Sports2023［総合版］（大修館書店）
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①各種の運動ごとに実施する実技テスト（記録）の出来具合<br>②新体力テストの出来具合<br>③３学期のみ定期考査の出来具合 | ①各種の運動に応じた技能向上への取り組み<br>②グループ活動や技術達成のための取り組み<br>③感謝や思いやりから協力する姿勢や取り組み | ①授業中の態度や意欲<br>②授業への準備（服装・体操）に対する姿勢や態度<br>③自己評価・振り返り・反省への態度 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況） B＋ | B（概ね満足できる状況） B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 実技テストと新体力テストの合計が８０点以上であり基本的な技術が習得できている。３学期のみ実技テストと定期考査。 | 実技テストと新体力テストの合計が５５～７９点である。３学期のみ実技テストと定期考査。 | 実技テストと新体力テストの合計が３０～５４点である。３学期のみ実技テストと定期考査。 | 実技テストと新体力テストの合計が３０点未満であり、基本的な技術や知識があまり理解できていない。３学期のみ実技テストと定期考査。 |
| 思・判・表 | グループ活動や課題となる運動技術の習得に積極的に取り組み、自分の考えを発言したり、適切に表現することができる。 | グループ活動や課題となる運動技術の習得に積極的に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができる。 | | グループ活動や課題となる運動技術の習得にあまり取り組むことができていない。 |
| | 応用的な技術にも積極的に取り組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。 | 真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 | | あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。 |
| 主体性・態度 | 運動技術の習得に向けて粘り強く取り組み、グループ活動やゲームでは積極的に活動することができる。 | 真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 | | あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。 |
| | 振り返るべき内容をきちんと考えて取り組むことができ、次の練習にしっかり活かすことができている。 | 振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。 | | 振り返るべき内容をあまり考えることができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | オリエンテーション<br>スポーツテスト②<br>陸上競技<br>（走り幅跳び）<br>○実技試験 | 7 |
| | 6月～7月 | 陸上競技<br>（砲丸投げ）<br>○実技試験 | 9 |
| 第2学期 | 8月～9月 | スポーツテスト①<br>ハンドボール<br>（パス・ドリブル・シュート）<br>○実技試験 | 14 |
| | 10月～11月 | バレーボール<br>（アンダーパス・オーバーパス・スパイク・サーブ・ゲ<br>○実技試験 | 11 |
| 第3学期 | 12月～1月 | バスケットボール<br>（パス・ドリブル・シュート・対人・ゲーム）<br>○実技試験 | 11 |
| | 2月～3月 | 体育理論<br>●期末考査 | 4 |
| 総　時　間　数 | | | 56 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 看護 | 科目名 | 疾病のなり立ちと回復の促進 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 3 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 新看護学２　栄養　薬理（医学書院）
② 新看護学３　疾病のなり立ち（医学書院）
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

看護の見方・考え方を働かせ、疾病の成り立ちと回復の促進に関する実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、看護の実践に必要な資質・能力を育成することを目指す。
（１）疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解するようにする。（２）基本的な課題を発見し、看護倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。（３）よりよい看護実践を目指して自ら

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査<br>1･2学期…中間考査40点<br>期末考査40点<br>3学期…期末考査80点<br>②確認テスト20点<br>前回までの授業内容について出題 | ①課題（ワークプリント）の内容<br>単元ごとに授業内容に関する課題（ワークプリント）を実施・提出<br>②グループワーク・発表の内容<br>探究課題についてグループ | ①授業中の態度や意欲<br>②提出物の内容<br>授業プリント等は指定通りファイルに綴じる<br>③ふり返り<br>定期考査後に実施する自己評価やふり返り、課題の提出状況を評価 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況）B＋ | B（概ね満足できる状況）B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。 | 定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。 | 定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。 | 定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。 | 課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。 | | 課題にあまり取り組むことができていない。 |
| | グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。 | グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。 | | グループワークにあまり取り組むことができていない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。 | 予習・復習に取り組み、授業に参加できている。 | | 予習・復習に取り組むことができず、授業への参加も積極的ではない。 |
| | 毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。 | 授業の内容についてふり返りができている。 | | 授業の内容についてふり返りができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | 薬理　１薬物に関する基礎知識 | 2 |
| | | 疾病　第3章　おもな疾病のなり立ち<br>A　呼吸器疾患 | 4 |
| | | 微生物　第1章　微生物の基礎知識 | 3 |
| | | 中間考査 | 1 |
| | 6月～7月 | 薬理　２医薬品に関する医療事故対策と看護の役割<br>３抗感染症薬　４抗悪性腫瘍薬<br>５免疫・炎症に関連する薬物 | 5 |
| | | 疾病　B　循環器疾患<br>C　消化器疾患 | 5 |
| | | 微生物　第2章　細菌 | 4 |
| | | 期末考査 | 1 |
| 第2学期 | 8月～9月 | 薬理　６末梢神経に作用する薬物 | 4 |
| | | 疾病　D　血液疾患 | 7 |
| | | 微生物　第2章　細菌 | 6 |
| | | 中間考査 | 1 |
| | 10月～11月 | 薬理　７中枢神経に作用する薬物<br>８循環器・血液系に作用する薬物　血液製剤 | 3 |
| | | 疾病　E　内分泌疾患<br>F　脳、神経疾患 | 5 |
| | | 微生物　第3章　ウイルス | 4 |
| | | 期末考査 | 1 |
| 第3学期 | 12月～1月 | 薬理　９　呼吸器、循環器系に作用する薬物<br>10　泌尿器、生殖器系に作用する薬物 | 5 |
| | | 疾病　G　運動器疾患<br>H　腎泌尿器疾患 | 4 |
| | | 微生物　第3章　ウイルス | 6 |
| | 2月～3月 | 薬理　11物質代謝に作用する薬物 | 4 |
| | | 疾病　I　女性生殖乳腺疾患　J　皮膚疾患<br>K　感覚器疾患　L　膠原病 | 3 |
| | | 微生物　第4章　真菌<br>第5章　原虫類 | 4 |
| | | 期末考査 | 1 |
| 総　時　間　数 | | | 83 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 看護 | 科目名 | 基礎看護 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 3 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 患者さんの情報収集ガイドブック（メヂカルフレンド社）　　看護学生のための臨地実習ナビ（照林
② 新看護学６基礎看護〔２〕、７基礎看護〔３〕、８基礎看護〔４〕、９成人看護〔１〕（医学書院）
③ 基礎看護（文部科学省）　　看護が見える①②（メディックメディカ）
④ ナーシンググラフィカ　基礎看護②③（メディカ出版）

**学　習　の　重　点　目　標**

看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的学習活動を行うことを通して、看護の基礎となる資質・能力を育成することを目指す。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査<br>1･2学期…中間考査40点<br>期末考査40点<br>3学期…期末考査80点<br>②確認テスト20点<br>前回の授業内容について出題 | ①レポートや課題の内容<br>単元ごとに授業内容に関する課題（ワークプリント）を実施・提出<br>②グループワーク・発表の内容<br>探究課題についてグループワークを実施 | ①授業中の態度や意欲<br>②提出物の内容<br>授業プリント、ワークプリントは指定通りファイルに綴じる<br>③ふり返り<br>自己評価ふり返り課題の提出状況やふり返り内容を評価 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況）B＋ | B（概ね満足できる状況）B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。 | 定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。 | 定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。 | 定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 課題やレポートに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。 | 課題やレポートに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。 | | 課題やレポートにあまり取り組むことができていない。 |
| | グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。 | グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えようど努力している。 | | グループワークにあまり取り組みが消極的で、自分の考えを周りに伝えることができない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。 | 予習・復習に取り組み、授業に参加できている。 | | 予習・復習に取り組めず、あまり前向きな気持ちで授業に参加できていない。 |
| | 毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。 | 授業の内容についてふり返りができている。 | | 授業の内容についてふり返りができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | b 創傷管理（無菌操作） | 8 |
| | | c 第２章　疾患の経過と患者の看護 | 5 |
| | | Ⅰa 治療処置を受ける患者の看護（検査、安静療法） | 8 |
| | | Ⅰb 第１章　患者と家族の理解　呼吸器疾患患者の看護 | 8 |
| | | Ⅱ 記録の書き方 | 8 |
| | | 中間考査 | 2 |
| | 6月～7月 | b 創傷管理（包帯法） | 4 |
| | | 与薬（内服・坐薬） | 10 |
| | | c 第２章　疾患の経過と患者の看護 | 5 |
| | | Ⅰa 治療処置を受ける患者の看護（食事療法、薬物療法 | 5 |
| | | Ⅰb 第１章　患者と家族の理解　呼吸器疾患患者の看護 | 13 |
| | | Ⅱ 記録の書き方 | 5 |
| | | 期末考査 | 3 |
| 第2学期 | 8月～9月 | b フィジィカルアセスメント | 2 |
| | | 注射法 | 4 |
| | | c 第４章　症状を示す患者の看護 | 3 |
| | | Ⅰa 治療処置を受ける患者の看護（運動療法、救急処置 | 3 |
| | | Ⅰb 第３章さまざまな場における看護　呼吸器疾患患者の看 | 4 |
| | | Ⅱ 臨地実習について | 3 |
| | | 中間考査 | 3 |
| | 10月～11月 | b フィジィカルアセスメント | 2 |
| | | 注射法 | 10 |
| | | c 第４章　症状を示す患者の看護 | 5 |
| | | Ⅰa 治療処置を受ける患者の看護（手術療法、集中治療 | 5 |
| | | Ⅰb 第３章さまざまな場における看護　呼吸器疾患患者の看 | 9 |
| | | Ⅱ 臨地実習について | 4 |
| | | 期末考査 | 3 |
| 第3学期 | 12月～1月 | b 注射法 | 6 |
| | | c 第４章　症状を示す患者の看護 | 3 |
| | | Ⅰa 治療処置を受ける患者の看護（放射線療法、透析療 | 5 |
| | | Ⅰb 呼吸器疾患患者の看護 | 10 |
| | | Ⅱ 記録の書き方 | 4 |
| | 2月～3月 | b 酸素療法・吸入 | 2 |
| | | 演習 | 6 |
| | | c 第４章　症状を示す患者の看護 | 2 |
| | | Ⅰa 治療処置を受ける患者の看護（精神療法） | 3 |
| | | Ⅰb 呼吸器疾患患者の看護 | 6 |
| | | Ⅱ 記録の書き方 | 10 |
| | | 期末考査 | 3 |
| 総　時　間　数 | | | 204 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 看護 | 科目名 | 成人看護 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 看護学入門１４　成人看護Ⅰ　消化器疾患患者の看護　（メヂカルフレンド社）
② 看護学入門１３　成人看護Ⅰ　循環器疾患患者の看護　（メヂカルフレンド社）

**学　習　の　重　点　目　標**

成人期にある対象の生活、保健および疾病について理解させ、成人看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査<br>1･2学期…中間考査40点<br>期末考査40点<br>3学期…期末考査80点<br>②確認テスト20点<br>前回の授業内容について出題 | ①課題の内容<br>単元ごとに授業内容に関する課題を実施・提出<br>②グループワーク・発表の内容<br>探究課題についてグループワークを実施 | ①授業中の態度や意欲<br>②提出物の内容<br>授業ノート、ファイル、課題は指定通りに綴じる。<br>授業ノート、ファイルの提出。<br>③ふり返り<br>定期考査後に行う自己評価やふり返り、課題の提出状況を評 |

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況）B＋ | B（概ね満足できる状況）B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。 | 定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。 | 定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。 | 定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。 | 課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。 | | 課題にあまり取り組むことができていない。 |
| | グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。 | グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。 | | グループワークにあまり取り組むことができていない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。 提出物を毎回期日までに出せる。 | 予習・復習に取り組み、授業に参加できている。促すと提出物を出すことができる。 | | グループワークにあまり取り組むことができていない。提出物を出すことができない。 |
| | 毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。 | 授業の内容についてふり返りができている。 | | 授業の内容についてふり返りができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | 消化器疾患患者の看護　第１章　基本的知識<br>（Ⅰ構造と機能　Ⅱ症状と病態生理　Ⅲ検査　Ⅳ治療・処置） | 6 |
| | | 中間考査 | 1 |
| | 6月～7月 | 消化器　第２章　主な疾患とその治療（Ⅰ口腔・食道の疾患　Ⅱ胃・十二指腸の疾患　Ⅲ腸・腹膜の疾患）<br>消化器　第２章　主な疾患とその治療（Ⅳ肝・胆・膵・脾臓の疾患・Ⅴ肛門の疾患　Ⅵ薬物の有害反応による消化器疾患）<br>＋<br>第４章　消化器疾患患者の看護（主な疾患患者の看護 | 16 |
| | | 期末考査 | 1 |
| 第2学期 | 8月～9月 | 消化器　第４章　消化器疾患の看護<br>（Ⅰ経過別看護　Ⅱ在宅看護・地域との連携　Ⅲ主な症状と看護　Ⅳ検査・治療・処置に伴う看護　Ⅴ主な疾患患者の看護残り） | 5 |
| | | 中間考査 | 1 |
| | 10月～11月 | 循環器　循環器疾患患者の看護　第１章　基本的知識<br>（Ⅰ構造と機能　Ⅱ症状と病態生理　Ⅲ検査　Ⅳ治療・処置）<br>循環器　第２章　主な疾患とその治療<br>（Ⅰ心不全Ⅱショック　Ⅲ不整脈　Ⅳ心臓弁膜症　Ⅴ虚血性心疾患） | 8 |
| | | 期末考査 | 1 |
| 第3学期 | 12月～1月 | 第４章　循環器疾患患者の看護（Ⅴ主な疾患患者の看護）<br>循環器　第２章　主な疾患とその治療<br>（Ⅵ心筋・心膜疾患　Ⅶ心筋症　Ⅷ血圧異常　Ⅸ脈管疾患　Ⅹ先天性心疾患　Ⅺそのほか）　＋<br>第４章　循環器疾患患者の看護<br>（Ⅴ主な疾患患者の看護）　残り含め | 10 |
| | 2月～3月 | 循環器　第４章　循環器疾患患者の看護<br>（Ⅰ経過別看護　Ⅲ主な症状と看護）<br>循環器　第４章　循環器疾患患者の看護<br>（Ⅳ検査・治療・処置に伴う看護） | 6 |
| | | 期末考査 | 1 |
| 総　時　間　数 | | | 56 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 看護 | 科目名 | 老年看護 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 看護学入門27　老年看護（メヂカルフレンド社）
②
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴について理解し、日常生活の障害や疾患をもつ高齢者の援助を学ぶ。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査<br>1･2学期…中間考査40点<br>期末考査40点<br>3学期…期末考査80点<br>②確認テスト20点<br>前回の授業内容について出題 | ①課題の内容<br>単元ごとに授業内容に関する課題を実施・提出<br>②グループワーク・発表の内容探究課題についてグループワークを実施 | ①授業中の態度や意欲<br>②提出物の内容<br>授業プリント、課題は指定通りファイルに綴じる。授業ノートの提出。<br>③ふり返り<br>定期考査後に実施する自己評価やふり返り、課題の提出状況を評価 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況）B＋ | B（概ね満足できる状況）B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。 | 定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。 | 定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。 | 定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。 | 課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。 | | 課題にあまり取り組むことができていない。 |
| | グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。 | グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。 | | グループワークにあまり取り組むことができていない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。 提出物を毎回期日までに出せる。 | 予習・復習に取り組み、授業に参加できている。促すと提出物を出すことができる。 | | グループワークにあまり取り組むことができていない。提出物を出すことができない。 |
| | 毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。 | 授業の内容についてふり返りができている。 | | 授業の内容についてふり返りができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | 第１章　高齢者（老年期）とは何か<br>Ⅰ高齢者とからだ　Ⅱ高齢者の心理的・精神的特徴<br>第３章　高齢者看護の原則　Ⅰ高齢者の特性を踏まえた看護の視点(高齢者の生活と健康.健康障害を持つ高齢者の身体的.心理的特徴) | 7 |
| | | 中間考査 | 1 |
| | 6月～7月 | 第５章　高齢者に多い疾患と看護（認知症.骨粗鬆症.変形性膝関節症.脊柱管狭窄症.大腿骨頸部骨折）<br>第５章　高齢者に多い疾患と看護（高齢者に多い慢性疾患.悪性疾患、感染症）<br>第４章　高齢者看護の特徴<br>Ⅰ日常生活の自立に対する援助（観察、コミュニケーション） | 11 |
| | | 期末考査 | 1 |
| 第2学期 | 8月～9月 | 第４章　高齢者看護の特徴<br>Ⅱ日常生活における援助技術（運動・移動.睡眠.食事.排泄.清潔衣生活）<br>Ⅲ検査・治療に伴う高齢者の看護（検査・薬物療法・食事療法・手術療法に伴う看護） | 10 |
| | | 中間考査 | 1 |
| | 10月～11月 | 第２章　高齢社会の医療と看護<br>Ⅰ少子・高齢社会の理解<br>Ⅱ高齢者の健康問題<br>Ⅲ高齢者に対する保健・医療・福祉の現状と2025年に向けた改革 | 9 |
| | | 期末考査 | 1 |
| 第3学期 | 12月～1月 | 第２章　高齢社会の医療と看護<br>Ⅳ高齢者看護の機能と役割<br>Ⅴ変化する高齢者看護の場<br>第３章　高齢者看護の原則<br>Ⅱ高齢者の特性を踏まえた看護の場 | 9 |
| | 2月～3月 | 第４章　高齢者看護の特徴<br>Ⅱ日常生活における援助技術（アクティビティケア,リスクマネジメント、緊急時の対応を要する高齢者の看護、災害看護 | 6 |
| | | 期末考査 | 1 |
| 総　時　間　数 | | | 57 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 看護 | 科目名 | 看護臨地実習（基礎） | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 3 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

①
②
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

1）健康障害により日常生活が規制されている対象を理解し、看護活動の基礎となる知識・技術・態度を習得する。
2）看護援助の基礎的要素を基盤にした生活の援助方法を学ぶ。
①看護活動の場と医療従事者を知る。　②看護対象の身体的、精神的、社会的側面を理解し、個別性を把握する。　③受け持ち患者を通して、健康者と健康障害者との違いを知る。
④入院生活が患者に及ぼす影響について援助を通してしる。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | 臨床指導者の評価<br>評価表を作成して臨床指導者に評価を依頼。具体的項目について3段階で評価を行う。 | 記録の評価<br>評価表を作成し、各提出記録の内容について評価を行う。 | 実習態度<br>・出席状況<br>・積極性<br>・言葉遣い<br>・服装 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況）B＋ | B（概ね満足できる状況）B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 臨床指導者の評価が80点以上であり、コミュニケーションや観察を通して患者の日常生活や個別性を理解し、問題となる情報を理解することができる。 | 臨床指導者の評価が55～79点。 | 臨床指導者の評価が30～54点。 | 臨床指導者の評価が30点未満であり、患者とのコミュニケーションが円滑にとれず、日常生活や個別性の理解が不十分である。 |
| 思・判・表 | 受け持ちの患者について情報を収集・整理し、記録することができ、患者の全体像を理解できる。 | 受け持ちの患者について情報を収集・整理し、記録することがある程度できている。 | | 受け持ちの患者について情報を収集・整理し、記録することができず、患者の全体像の理解が不十分である。 |
| | 適切な専門用語を用い、記入漏れなく毎日提出できる。 | 毎日の記録提出ができ、指導があれば適切な専門用語を用い、記入漏れなく書くことができる。 | | 毎日の記録提出ができない。また、指導を受けても適切な表現で記録を書くことができない。 |
| 主体性・態度 | 看護学生としてふさわしい身だしなみを整え、礼儀正しく、その場にふさわしい言動をとることができる。 | 身だしなみや礼儀・言動において、他者から指摘された際に素直に受け入れ、改善することができる。 | | 身だしなみや礼儀・言動において、他者から指摘されるが、改善までに時間を要する。 |
| | 指導者や教員に報告・連絡・相談を行い、実習に積極的に取り組んでいる。また、遅刻・早退・欠席がない。 | 指導者や教員に報告・連絡・相談を促すとすることができる。また、体調が優れないときには必要な対処ができる。 | | 指導者や教員に報告・連絡・相談ををすることができない。また、連絡なしの遅刻・早退・欠席がある。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | | |
| | 6月～7月 | | |
| 第2学期 | 8月～9月 | | |
| | 10月～11月 | 病院での臨地実習 | 75 |
| 第3学期 | 12月～1月 | | |
| | 2月～3月 | | |
| 総　時　間　数 | | | 75 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 看護 | 科目名 | 看護臨地実習（老年） | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 1 | 学科 | 看護科 | 学年 | 2年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

①
②
③
④

**学　習　の　重　点　目　標**

老年期の特徴や高齢者の保健・医療・福祉について理解し、日常生活において何らかの障害を持つ高齢者の看護について学ぶ。

①老年期における身体、精神、社会的特徴を理解する。
②高齢者とのコミュニケーションを通じて高齢者のニーズを理解する。
③日常生活に障害のある高齢者の看護・介護を理解する。
④高齢者に対する保健・医療・福祉援助の実際を見学し、高齢者

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | 臨床指導者の評価<br>評価表を作成して臨床指導者に評価を依頼。具体的項目について3段階で評価を行う。 | 記録の評価<br>評価表を作成し、各提出記録の内容について評価を行う。 | 実習態度<br>・出席状況<br>・積極性<br>・言葉遣い<br>・服装 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況）B＋ | B（概ね満足できる状況）B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 臨床指導者の評価が80点以上であり、老年期の特徴や高齢者の日常生活について十分に理解できる。 | 臨床指導者の評価が55～79点。 | 臨床指導者の評価のが30～54点。 | 臨床指導者の評価が30点未満であり、老年期の特徴や高齢者の日常生活についての理解が不十分である。 |
| 思・判・表 | 受け持ちの高齢者の状況や援助を十分に理解し、記録することができる。 | 受け持ち高齢者の状況や援助について理解し、ある程度記録することができる。 | | 受け持ち高齢者の状況や援助について理解が進まず、記録することができない。 |
| | 適切な専門用語を用い、記入漏れなく毎日提出できる。 | 毎日の記録提出ができ、指導があれば適切な専門用語を用い、記入漏れなく書くことができる。 | | 毎日の記録提出ができない。また、指導を受けても適切な表現で記録を書くことができない。 |
| 主体性・態度 | 看護学生としてふさわしい身だしなみを整え、礼儀正しく、その場にふさわしい言動をとることができる。 | 身だしなみや礼儀・言動において、他者から指摘された際に素直に受け入れ、改善することができる。 | | 身だしなみや礼儀・言動において、他者から指摘されるが、改善までに時間を要する。 |
| | 指導者や教員に報告・連絡・相談を行い、実習に積極的に取り組んでいる。また、遅刻・早退・欠席がない。 | 指導者や教員に報告・連絡・相談を促すとすることができる。また、体調が優れないときには必要な対処ができる。 | | 指導者や教員に報告・連絡・相談ををすることができない。また、連絡なしの遅刻・早退・欠席がある。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | | |
| | 6月～7月 | | |
| 第2学期 | 8月～9月 | 各施設での臨地実習 | 37 |
| | 10月～11月 | | |
| 第3学期 | 12月～1月 | | |
| | 2月～3月 | | |
| 総　時　間　数 | | | 37 |

# 学　習　指　導　計　画　・　年　間　授　業　計　画

| 教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース | | | | | | CD | 進学 | 特進 | 進文 | 進理 | 特文 | 特理 | 看護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科名 | 国語 | 科目名 | 論理国語 | | | | | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 学科 | 看護科 | 学年 | 3年 | 該当するコース・科 → | | | | | | | ● |

**教　科　書　・　副　教　材　・　（発　行　所）**

① 新論理国語（三省堂）
② 新論理国語　学習課題ノート（三省堂）
③ 常用漢字ダブルクリア（尚文出版）
④

**学　習　の　重　点　目　標**

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。特に実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価の趣旨 | ①定期考査の出来具合<br>教科書・副教材の内容を中心に作問<br>②小テストの出来<br>授業で学習した内容・漢字についての小テストを実施 | ①学習課題ノート･課題プリント<br>単元毎に学習課題ノート･課題プリントを実施<br>②意見発表の内容<br>学習活動の中で、考えを深め意見を発表する活動を実施 | ①授業中の態度や意欲<br>②提出物の内容<br>プリント・副教材<br>③自己評価・振り返り<br>小テストや考査後に自己評価や振り返りを実施 |

**評　価　の　基　準**

| | A（十分満足できる状況） | B（概ね満足できる状況） B＋ | B（概ね満足できる状況） B－ | C（努力を要する状況） |
|---|---|---|---|---|
| 知・技 | 定期考査と小テストの合計得点が８０点以上であり、基本から応用まで概ね理解することができている。 | 定期考査と小テストの合計得点が５５～７９点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０～５４点である。 | 定期考査と小テストの合計得点が３０点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。 |
| 思・判・表 | 探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。 | 探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。 | | 探究的な課題やグループ活動にあまり組むことができていない。 |
| | 応用的な問題にも計画的に取り組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。 | 応用的な問題に取り組み、ある程度の思考力や判断力が身についてきている。 | | 応用的な問題にあまり取り組むことができていない。 |
| 主体性・態度 | 予習・復習をして粘り強く学習に取り組み、グループ活動においても積極的に発言することができる。 | 真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 | | あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。 |
| | 振り返るべき内容を的確に捉えて表現することができ、次の取り組みに活かすことができている。 | 振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。 | | 振り返るべき内容をあまり考えることができていない。 |

| 学期 | | 学　習　内　容 | 時数 |
|---|---|---|---|
| 第1学期 | 4月～5月 | 7、具体と抽象の関係を理解するために<br>「人類による環境への影響」 | 7 |
| | | ★中間考査 | 1 |
| | | 7、具体と抽象の関係を理解するために<br>学びを深める<br>「であることとすること」 | 4 |
| | 6月～7月 | 8、批評するために<br>「日本マンガのブルーオーシャン戦略」 | 12 |
| 第2学期 | 8月～9月 | ★中間考査 | 1 |
| | 10月～11月 | 8、批評するために<br>「ミロのヴィーナス」 | 4 |
| | | 9、解釈を形成するために<br>「学びとは何か」 | 9 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| 第3学期 | 12月～1月 | １０、新たな観点から自分の考え方を深める力<br>「リスク社会」 | 11 |
| | | ★期末考査 | 1 |
| | 2月～3月 | | |
| 総　時　間　数 | | | 51 |